

日本発達心理学会 2017年度 国際ワークショップ・公開講演会 報告 公開講演会：「アメリカにおける LGBT の若者といじめ：安全で支えのある 学校の創造」

国際研究交流委員会 浦田 悠（大阪大学）

日本発達心理学会では毎年、海外の著名な研究者を講師として招聘して国際ワークショップを開催し、合わせて一般の方々も対象とした公開講演会を開催してきました。2017年度の国際ワークショップは、講師にテキサス大学のスティーヴン・ラッセル（Stephen Russell）先生をお迎えし、「多重マイノリティということ、マイノリティ間のコンフリクト／共感：様々なマイノリティ間のよりよい協働をめざして」と題して、11月3日（金）～5日（日）の3日間、大阪大学中之島センターおよび近隣会場で開催されました。また、国際ワークショップ2日目の午前には、同センターにて「アメリカにおける LGBT の若者といじめ：安全で支えのある学校の創造」と題して公開講演会が行われました。

今回講演をしてくださったラッセル先生は、青年期の性別違和・性的指向や人種／民俗的マイノリティに関わるいじめや差別、メンタルヘルスや支え合い、安全な学校のあり方についての調査研究で知られています。今回の講演会は、アメリカにおけるこれらの問題の現状や我が国への示唆を考える絶好の機会となりました。公開講演会では、ディスカッションの時間も多く設けられ、ラッセル先生と参加者のみならず、参加者間でも非常に活発な議論が行われました。

この公開講演会は、共催機関としての（公財）発達科学研究教育センター（CODER）の助成金支援によって実現したものです。この場を借りまして、本学会の公開講演会に温かいご支援を下さった（公財）発達科学研究教育センターに厚くお礼申し上げます。

なお、本講演会は、臨床発達心理士、学校心理士、および臨床心理士の資格ポイントの対象として認定され、結果として、それぞれ28名、10名、16名の先生が、本講演会への参加により各資格ポイントを取得されました。

また、本講演会は、大阪大学キャンパスライフ健康支援センター、大阪大学男女協働推進センターの共催により、大阪大学中之島センターの佐治敬三メモリアルホールで開催することができました。ホストを務めてくださった大阪教育大学の戸田有一先生と鳴門教育大学の葛西真記子先生を始め、お力添え賜りました関係各位に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。